

平成 30 年 9 月 7 日

京口門だより NO. 59

ようやく秋の涼しさを感じるようになりました。あの猛暑や集中豪雨の記憶が薄らぎつつありますが、豪雨災害の影響はまだ深刻なところもあります。

「新涼や月光うけて雨しばし」(本田あふひ)

秋涼とともに夏の疲れがしのび寄り、食欲がなくなったり、身体のだるさが増してくることがあります。睡眠をよくとり、生活を規則正しくすることが大切ですが、どうしても夏バテで困っている方には、胃腸の働きをよくし、疲労を改善するような漢方薬もあります。

秋の涼しさがやってくる頃は、アレルギー疾患のある方にとってはつらい季節といえるでしょう。とくに鼻炎や喘息の方には、この季節に症状が悪くなる傾向があります。最近の特徴として、鼻水、くしゃみ、鼻づまりなどが起こる花粉症ないしアレルギー性鼻炎と喘息は合併しやすく、およそ喘息の患者さんの 80% に伴っているという報告もあります。花粉症は春や秋の季節の変わり目に起き、アレルギー性鼻炎は季節の変化に関わりなく、年中起こってくるものを言います。鼻炎は耳鼻科、喘息は内科ないし呼吸器科ということにはならず、一緒に治療してゆかねばなりません。

近年の傾向として、発展途上国では喘息は少なく、反って近代化された都市や国に喘息が多いと言われます。喘息だけでなくアトピー性皮膚炎、鼻炎も多くみられ、空調の効いた清潔な空気の密閉されたなかで生活し、犬や猫と同居し、化学物質を多くふくんだ肉類や遺伝子操作された野菜なども影響しているかもしれません。喘息のアレルゲンとして、室内の塵、猫や犬の毛や皮膚、ダニなどが頻度の高いものとされています。

子供の喘息と大人の喘息は様子かなり異なり、子供の喘息はうまく治療ができれば、成長とともに治る場合がよくみられます。成人の喘息はさまざまな要因がからみあって難治性の場合が多くあります。われわれの漢方治療でも小児の喘息を漢方薬だけで治療し、すっかり治って超有名大学に入学された方も何人かおられます。

喘息は現代医学では吸入ステロイド剤が中心ですが、一生依存せねばならない方や嗄声(声がかれる)や口内カンジタ症に悩まされる人もあり、直接吸入ではなく、スぺイサー(吸入補助器具)を介して吸入することが大切です。

